

「環境・エネルギー」産業発掘戦略の概要

- ・「メイド・イン・ジャパン」を環境配慮型製品・サービスの代名詞（環境ブランド）として国際的に定着させ、競争力を強化。
- ・2010年に燃料電池自動車5万台の普及を目指す。

1. 将来実現される社会像

遅くとも概ね10～20年後までに、次の三点で特色のある社会の実現が図られるよう、直ちに全力で取り組む。

創る：産業活動のあらゆる局面に環境・エネルギー配慮が組み込まれ、環境・エネルギー問題の解決に資する技術、製品、サービスの創出・発展を通じ、環境の保全を図りつつ経済の活性化が図られる産業社会

暮らす：環境・エネルギー産業の発展を背景にして、環境配慮を内在したライフスタイルが定着し、豊かな自然に囲まれ、環境リスクに対する不安のない、エネルギーの安定供給が確保された安心・安全な生活を送れる社会

知る：各企業の取組状況、環境・エネルギーに配慮した製品・サービスに関する情報を誰もがどこでも入手でき、そうした情報が活かされる情報社会

2. 戦略目標及び具体的行動計画

(1) 戦略目標

「環境・エネルギー技術へのチャレンジを産業競争力の源泉に」（技術のグリーン化）

環境・エネルギー技術の革新に向けての高い目標を乗り越えようとする産業界のチャレンジを産業競争力の源泉とし、環境・エネルギー産業の発展につなげていく。

「メイド・イン・ジャパン」の環境ブランド化（産業のグリーン化）

製品・サービスの環境配慮化と環境経営の全産業への浸透を徹底的に押し進め、「メイド・イン・ジャパン」を環境配慮型製品・サ

ービスの代名詞として国際的に認知させ、世界市場における競争力を強化。

「日本市場を世界のエコ市場の登竜門に」(市場のグリーン化)

製品・サービスや企業に関する環境情報の開示・提供の一層の推進と、消費者等への環境・エネルギー教育・学習の飛躍的拡充により、日本市場を、環境配慮の度合いで製品・サービスや企業を厳しく選別するグリーン市場に創り変え、日本を制するものが世界を制するような環境整備を推進。

(2) 具体的行動計画

技術のグリーン化

技術革新を促すような高い目標を設定し、産学官連携を進めつつ研究開発を推進。また、幅広い人材を育成。

産業のグリーン化

強固な環境経営の実践が企業の競争力に寄与するような基盤を整備。日本発の製品・サービスや新たな取組をモデルとして発信。

市場のグリーン化

市場での競争を促進する環境整備、環境配慮型の製品・サービスの消費促進のための環境JIS等の標準化や規制改革、環境配慮を考慮した投資先選定、情報提供及び環境・エネルギー教育等の推進。

上記3つの戦略を踏まえ、環境・エネルギー産業の発掘を推進。

地球温暖化対策推進大綱を基礎としつつ、新エネルギー、省エネルギー、システム、原子力、次世代自動車、効率的な物流、天然ガスシフトなど産業の創出・拡大のための技術開発や普及促進に取り組む。

循環型社会の構築に向けた環境を整備。産業間連携や地域と産業との連携による物質・エネルギー循環の促進、技術革新によるグリーン・インダストリー、バイオマスの利活用等を推進。

その他、様々な形態のエコ・サービスの拡大、汚染された環境を浄化する事業などを推進。